

エジプト学研究第 21 号 2015 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.21, 2015

目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
2014 年 太陽の船プロジェクト 活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	5
第 7 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報		
近藤二郎・吉村作治・河合 望・菊地敬夫・柏木裕之・竹野内恵太・福田莉紗		19
〈特別寄稿論文〉		
年輪年代学とエジプト学	ピアース ポール クリースマン・ジェフリー S ディーン	45
〈研究ノート〉		
中王国時代の装身具利用からみた埋葬習慣の地域性	山崎世理愛	59
〈修士・卒業論文概要〉		
エジプト先王朝時代における石製品研究		
—その生産と流通からみた地域統合過程の変遷を中心に—	竹野内恵太	79
「古代テーベとそのネクロポリス (The Ancient Thebes and its Necropolis)」における		
遺跡の保存と活用	福田莉紗	87
古代エジプト古王国時代から第一中間期における王権観	松永修平	96
〈活動報告〉		
2014 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		103
2014 年 エジプト調査概要		107
〈編集後記〉	近藤二郎	113

The Journal of Egyptian Studies Vol.21, 2015

CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA.....	3
Field Reports		
Report of the Activity in 2014, Project of the Solar Boat	Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA.....	5
Preliminary Report on the Seventh Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition	Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI, Keita TAKENOUCI and Risa FUKUDA.....	19
Articles		
Dendrochronology and Egyptology	Pearce Paul CREASMAN and Jeffrey S. DEAN.....	45
Regional Variability of Personal Adornments and Burial Customs in the Middle Kingdom	Seria YAMAZAKI.....	59
Summary of the Recent Undergraduate Theses.....		79
Activities of the Society, 2014-15.....		103
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2014.....		107
Editor's Postscript.....	Jiro KONDO.....	113

2014年 エジプト調査概要

1. 調査期間および調査参加者（敬称略）

(1) 太陽の船調査

調査期間： 2014年1月1日～12月31日（継続中）

調査参加者： 【日本側参加者】

吉村作治（統括）、黒河内宏昌（現場主任）、高橋寿光、伏屋智美、米山由夏（以上部材の取り上げ）、イザベラ・ウフマン、西坂朗子、リチャード・ジャスキ、吉村佳南、青木繁夫、（以上保存修復）、池内克史、影沢政隆、鎌倉真音（以上三次元測量）、山田綾乃、福田莉紗（以上記録測量）、吉村龍人（現地事務所所長）、ユーセフ・カーリッド（現地事務所技師）、岩出まゆみ（広報）、佐々木愛（事務局）

【エジプト側主要参加者】

アフフィ・ローハイエム（エジプト側プロジェクトリーダー）、アイーサ・ジダン（エジプト側チーフコンサバーター）、ディア・エルディン（インスペクター）、エザト・フセイン（チーフワーカー）

(2) ルクソール西岸・アル＝コーカ地区調査

調査期間： 第7次調査 2013年12月19日～2014年1月12日

調査参加者： 近藤二郎、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、竹野内恵太、福田莉紗

(3) アブシール南丘陵遺跡調査

調査期間： 第23次調査 2014年8月3日～2014年9月13日

調査参加者： 吉村作治（隊長）、河合 望（現場主任）、近藤二郎、高宮いづみ、柏木裕之、高橋寿光、竹野内恵太、山崎美奈子、福田莉紗、荻谷浩子、馬場悠男、坂上和弘、阿部善也、大越 彩、内沼美弥、扇谷依李

2. 調査概要

(1) 太陽の船プロジェクト

①現場施設の建設

- a) 保存処理場；部材収納棚を設置、空調機器を追加し、保存処理場を完成。
- b) GEMCC 部材収納スペース；GEMCC の収蔵庫内に収納スペースを確保し、合計 482 段の収納棚を設置。
- c) 新しい蓋石用シェルター；春期の砂嵐で倒壊した木造シェルターに替え、鉄骨による新しいシェルターを建設。（施工は SAMA CONSTRUCTION CO.）

②部材の取り上げ

2014年1月～12月の間に、部材番号69番から304番までの取り上げを行った（部材番号202、215、

231、290、297、298を除く)。

③保存修復

パラロイド B72 (5%～15%) による部材の強化、パラロイド B72 (25%) を用いた変形の矯正、パラロイド B72 (50%～) を用いた分離部分の接合、およびグラスマイクロバルーンによる欠損個所の充填を保存修復の基本プランとして定めた。そして8月より本格的な保存修復を開始し、合計93点の部材の処理を終えた。

一方で、パラロイド B72 では強化しきれない部材のために、ナノ・セルロースおよびその他の物質のテストを、青木繁夫教授の指導のもと、(独) 東京都産業技術総合研究センターにて行った。

④三次元測量

池内克史教授および東京大学生産技術研究所池内研究室のメンバーにより、レーザースキャナーを用いてピット内の部材配置、および取り上げた部材の三次元測量を開始した。

⑤ GEMCC への部材の移送

保存修復を終えた部材のうち68点を、3回に分けて、GEMCC に設けた収蔵スペースに移送した。

⑥広報活動

a) シンポジウム；第3回太陽の船シンポジウム 太陽の船にこめられた古代エジプト人からのメッセージ、2014年7月28日(月)、18:30～20:30、於早稲田大学小野記念講堂

b) TV 放映；吉村作治監修、RKB 毎日放送制作のTV特番「古代エジプトミステリー紀行」が、12月14日(日) 15:30～17:00、TBS 系列全国ネットにて放映された。



保存修復作業の本格化した現場にて

(2) ルクソール西岸・アル＝コーカ地区調査

ルクソール西岸（ネクロポリス・テーベ）のアル＝コーカ地区での調査は、2007年12月から開始され、2013年12月19日～2014年1月12日にかけて第7次調査が実施された。この調査の目的はアル＝コーカ地区に位置する新王国時代第18王朝アメンヘテプ3世治世末期の高官ウセルハトの墓(TT47)を再調査することにより、この墓の正確な平面プランおよび墓内装飾・碑文を明らかにしようとするものである。第7次調査では、第6次調査で第47号墓の前庭部の南に土砂の崩落を防ぐための擁壁を設けたことを受けて、前庭部内南側の発掘調査を実施した。また、天井が部分的に崩落した前室の状況を確認するため、特に前室北側のクリーニングと測量を実施した。前庭部の東側の砂礫の堆積の除去も同時に実施した。特筆すべきは、前庭部内南側の砂礫の除去を行ったところ、南壁のほぼ中央から開口部が検出され、未登録の新たな墓が2基発見された。開口部は前庭部の南側に位置する無装飾の岩窟墓の入口であることが確認され、この墓はKHT01と名付けられた。さらにKHT01の前室の奥には別の墓の前室の一部が貫通しており、内部が壁画で装飾された墓(KHT02)が発見された。このKHT02は、内部の壁画の様式から新王国時代第19王朝末に年代付けられ、銘文からコンスウエムヘブという人物の墓であることが明らかになった。コンスウエムヘブは、「ムウトの工房の長」「ムウト神殿の醸造長」の称号を持ち、妻は「ムウト女神の歌い手」の称号を持つムウトエムヘブである。息子および娘もムウト神殿に関係する役職を持つことから、コンスウエムヘブとその家族はムウト神殿に関わる役人の家族であったことが判明した。壁画は葬送の場面、神々への礼拝の場面、被葬者の家族による被葬者への礼拝の場面、心臓の計量の場面、「太陽神への讃歌」などで構成され、古代エジプト新王国時代ラメセス朝時代の来世観に関する貴重な資料である。この発見は、考古省のムハンマド・イブラヒーム大臣が、2015年1月4日に公式に発表し、世界中のマスコミで報道され、世界的に注目されることとなった。帰国後は1月20日に早稲田大学で記者会見を行った。



コンスウエムヘブ墓発見時の様子

コンスウエムヘブ墓などを発見したことで、保護用の鉄扉の設置を目指したが、開口部の周囲から階段付きのプラットフォームなどの日乾煉瓦の構造物が検出されたこともあり、第7次調査終了時には鉄扉の設置はおこなわず、開口部は切石・焼成煉瓦・日乾煉瓦などで塞ぎ、セメントで完全に封鎖した。

なお、なお、本研究は早稲田大学特定課題研究(2013B-033)「古代エジプト、テーベ岩窟墓第47号(ウセルハト墓)の調査」(研究代表者:近藤二郎)、科学研究費基盤研究(B)(22404020)「古代エジプト、岩窟墓の掘削技術に関する調査研究」(研究代表者:柏木裕之)、早稲田大学特定課題研究(2013A-975)「古代エジプト新王国時代第18王朝史の再構築」(研究代表者:河合 望)などの助成によるものである。



第7次調査終了状況

(3) アブ・シール南丘陵遺跡調査

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1991年よりエジプト・アラブ共和国、カイロ近郊のアブ・シール南丘陵遺跡において発掘調査と保存修復・遺跡整備を継続してきた。2011年1月のエジプト革命以来、発掘調査の実施は延期され、2012年には2009年の第19回以来約3年ぶりに第22回調査を実施したが、2013年8月のムルシー前大統領の解任に伴う混乱のために2013年に予定していた第23回調査は延期を余儀なくされ、2014年8月に2年ぶりに調査が再開された。第23回調査の目的は、イシスネフェルトの石棺の修復作業の継続、カエムワセトの石造建造物の未発掘部分の完掘、そしてイシスネフェルト墓のシャフト周辺の堆積を確認するための発掘調査であった。

イシスネフェルトの石棺の修復は、2010年より助成を賜っている住友財団の「海外の文化財維持・修復助成」によるもので、古代に破壊を受けたものの、非常に良質な石棺であるイシスネフェルトの石棺を保存修復し、展示することを目的としている。石棺の表面には青色顔料エジプシャン・ブルーを基調とする彩色レリーフでヒエログリフの銘文と神々の図像が施されたラムセス2世時代の王家の女性の石棺を代表とするものである。第22回調査において、埋葬室から蓋を遺物収蔵庫に移動し、応急的なクリーニング処置等を行っ

たが、今回は将来に埋葬室内部で修復作業を行うための、石棺本体の移動を試みた。石棺全体の保護を行ったのち、油圧ジャッキを使用して石棺の位置を垂直に上げる作業を行ったが、時間的な制約などから石棺移動作業は完了せず、来季調査に継続されることとなった。

カエムワセトの石造建造物南側発掘区の調査では、地山由来の砂礫と石造建造物の造営に由来する石灰岩チップを充填して平坦面を作り出した痕跡が確認され、石造建造物南側外周壁の基礎部とその付近から3箇所ピットが検出された。これらのピットは石造建造物造営以前の活動の痕跡とみられた。イシスネフェルト墓のシャフト周辺の調査では、シャフトの東西軸に合わせるように層位確認のためにトレンチを設定し、石灰岩チップと多孔質石灰岩片が含まれた黄褐色細砂礫層と地山由来の多孔質石灰岩および赤褐色粗砂層の2層に大きく分層された。前者は盗掘時の排土、後者は最初のシャフト掘削時の排土と解釈された。



イシスネフェルト墓シャフト周辺（グリッド 11B, 12B）。中央がシャフト西側トレンチ



カエムワセト石造建造物南側（グリッド 4B, 4C, 4D）完掘後

来季調査では、イシスネフェルトの石棺の保存修復の継続、イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘の継続、そして丘陵頂部の未発掘エリアの発掘を実施する予定である。

なお、本研究は文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(A)(課題番号:26257010)「葬制から見た古代エジプト文明の変化とその社会的背景に関する学際的研究」(研究代表者:吉村作治)、基盤研究(C)(課題番号:24520869)「エジプト王朝時代の聖地の形成と展開に関する考古学的研究」(研究代表者:河合 望)、住友財団海外の文化財維持・修復助成などの助成によるものである。

3. 謝辞

2014年度も早稲田大学古代エジプト調査隊の活動に対し多くの企業様よりご支援をいただきました。ここに記して感謝いたします。

(株)ニトリホールディングス、(株)ダイドードリンコ、(社)全国優良石材店の会、RKB毎日放送(株)、(株)熊谷組、(株)エアーク、キリンホールディングス(株)、サントリーウエルネス(株)、(株)ポニーキャニオン、(株)ワイズマート、(株)アケト

2015年度も調査・研究、そしてエジプト学の普及に邁進してまいりますので、今後ともご支援、応援のほど宜しくお願い申し上げます。

エジプト学研究 第21号

2015年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.21

Published date: 31 March 2015

Published by The Egyptological Society, Waseda University

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University